同志社大学
Doshisha University

人々の哀しみに感応する

DOSHISHA
GLOBAL
AND
REGIONAL

グローバル地域文化学部

学部の理念

人々の哀しみに感応しつつ世界の諸問題を研究し、希望ある共生社会を構想する

地球規模の問題はどこか遠い話ではなく、まさしく隣人との関係性のうちにもひそんでいます。すぐそばの隣人と、まだ見ぬ世界の果ての他者と、自己自身の拠って立つ足場とをつないで思考できる想像力。人々の哀しみに感応し、他者と共になにごとかを知ろうとする「良心ある知性」。その実現の困難を理解しつつ、それでもなお希望ある共生社会を構想する高い志。こうしたものこそが、本学部での学びの課題となります。

- 複数の外国語を運用する
- 世界の惨状や人々の哀しみに感応する
- 希望ある共生社会を構想する
- グローバル社会にふさわしい教養、良心ある知性、自由な精神を育む

3つのコース

地域の理解を糸口に、グローバルな諸問題を追求する

ヨーロッパ、アジア・太平洋、アメリカの3つのコースのいずれかに属し、地域の歴史・文化・課題に関する学際的な知識を身につけ、自ら問題を批判的に考察する方法を学びます。歴史認識、移民・難民、紛争、環境問題、ジェンダーといったグローバルな問題を考察したり、「他者とは何か」といった主題に多様なアプローチを通じて迫るなど、学際的でコース横断的な授業を多彩に用意しています。

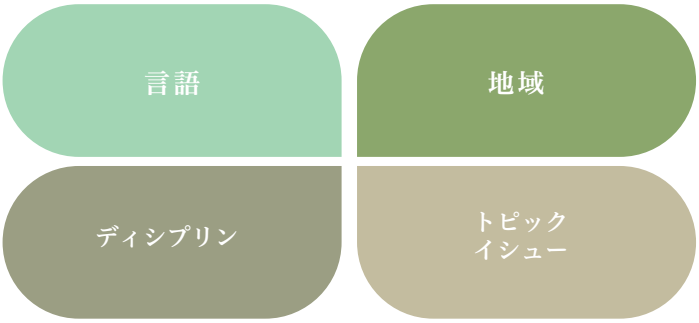
本学部が求める学生像

1. 多様な文化的背景を持つ人々とともに、国際社会に貢献したい。
2. 一定以上の英語力があり、英語以外の外国語にも強い関心を持っている。
3. 日本を含む世界の歴史、地理、時事問題についての基礎的な知識を持っている。
4. 論理的に考える力や判断する力、的確に表現する力を身につけたい。

学部の特長

1 カリキュラムの4つの軸

本学部のカリキュラムは、言語（複数の外国語を学ぶ）、ディシプリン（様々な学問分野のスタイルや方法論を学ぶ）、地域（世界各地の歴史、文化、社会について学ぶ）、トピック／イシュー（グローバルな課題とその解決について考える）の4つの軸から構成されています。



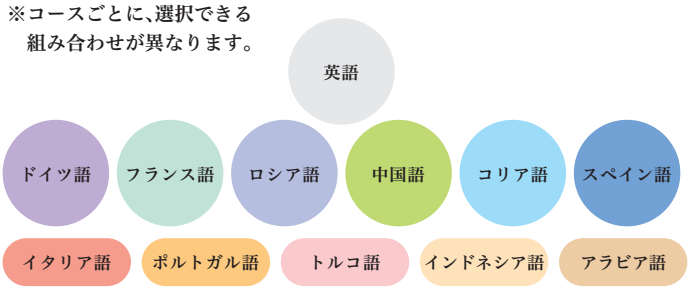
2 セミナーによる少人数教育

1、2年次には主に学術書の読み方やレポートの書き方、様々な学問分野のスタイルや方法論について学びます（導入セミナー／入門セミナー／教養セミナー）。3、4年次には自らのテーマを見つけ、それを深く探究していくことで、卒業論文の執筆につなげます（発展セミナー／専門セミナー）。これ以外にも、外国語文献を読むセミナーや、英語で行われるセミナーがあります。

3 複数の外国語を身につける

地域への深い理解や卒業論文の執筆を支えるものとして、本学部では複数の言語を身につけてもらいたいと考えています。英語は必ず、加えてもう一つの外国語を、第一または第二言語として学びます（さらに第三外国語として学べる外国語もあります）。

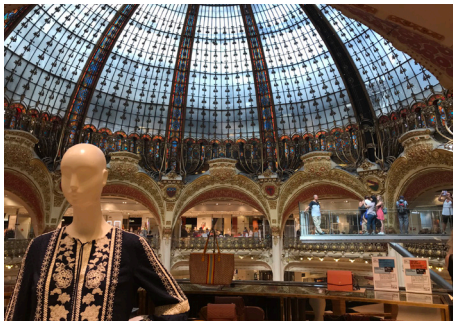
※コースごとに、選択できる組み合わせが異なります。



4 GとRをつなぐ体験的な学び

多様な背景を持つ他者や文化と出逢う方法として、グローバル地域文化学部では「グローバル（Global）」と「地域（Regional）」をつなぐ体験的な学びを重視しています。従来の海外留学プログラムに加え、2022年度より、国内でグローバルな体験ができるフィールドワークやプロジェクト型の科目を提供しています。

EUROPEAN STUDIES
ヨーロッパコース



古くて、新しいヨーロッパ

ヨーロッパは多くの国家・文化・言語を内包した多元的な地域であり、現代に至るまで様々な対立を経験する一方、対立を抑止するための連帯のあり方も模索してきました。また、大航海時代以降の海外進出によって、南北アメリカ、アフリカ、アジアといった世界の諸地域と密接な関係を持つようになり、今日のグローバルな世界のあり方には良くも悪くもヨーロッパが大きな影響を与えています。ヨーロッパを理解することは、私たちの生きる現代世界を理解することにつながるのです。

本コースでは、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語などの言語を通じて、ヨーロッパ諸国それぞれの固有の歴史・文化・社会を詳しく学ぶことで、多様なヨーロッパの姿を捉えるとともに、諸国家間の「対立」と「連帯」のあり方からヨーロッパの一つになろうとする動きについても考えます。また「民主主義」「宗教」「移民」「植民地主義」といったテーマを通じて、ヨーロッパを世界との関わり合いの中で捉えることも重要です。

ASIA-PACIFIC STUDIES
アジア・太平洋コース

躍動するアジア・オセアニア

皆さんは「アジア・オセアニア」と聞いてどんなことを思い浮かべるでしょうか。「日の出」「東」を語源とするアジアは東西に長く、地理的にも文化的にも多様です。グローバリゼーションが進展する今日、アジア・オセアニア地域はかつてのイメージとは異なり、世界経済の一大センターの地位にあるといっても過言ではありません。しかし経済発展や近代化に伴い、ローカルな社会や文化は急激な変化にさらされてきました。一方で、隣接する地域間が抱える葛藤が、時に政治的対立、さらには紛争といった形で顕在化しています。また地球温暖化の影響などにより生存が脅かされる地域を多く含みます。

こうした課題に、私たちはどう関わっていくべきでしょうか。本コースでは、アジア・オセアニア地域固有の歴史・文化や情勢だけでなく、文化衝突、歴史認識、民族移動、国際関係、環境問題などについて最新の知見を取り入れ、多角的に考察を行いながら、地域間の葛藤を解決する方法を探っていきます。こうした学びは、私たちのあるべき未来を構築することへつながるはずです。

AMERICAS STUDIES
アメリカコース

千の顔を持つアメリカス

本学部では、「アメリカ」を南北アメリカ大陸およびその周辺島嶼地域を含む「アメリカス(The Americas)」ととらえます。大航海時代以降、先住民が暮らしていた南北アメリカにヨーロッパ、アフリカ、アジアから多くの人々が流入した結果、実に多民族的で多文化的な国家・社会がこれらの大陸に形成されました。世界が地球規模のマーケットに統合されていく過程で、北アメリカはその中核的存在となり、政治・経済・軍事面ばかりでなく、やがて映画・音楽・ファッションなどのソフトな面でも大きな影響力を持つようになりました。天然資源が豊かな南アメリカは、農業や工業における経済的躍進に注目が集まる一方、その多様で独特な音楽や舞踊、文学などが世界で愛されています。

本学はアメリカ合衆国の研究で日本の草分け的存在であり、本学部は南アメリカの政治・社会や文化を多面的に学べる日本でも数少ない学部の一つです。本コースでは、歴史、人種や民族、ジェンダー、大衆文化、国際政治などについて学びつつ、「アメリカス」を地域内の多様性と他地域との関係から考察します。

STUDENT'S VOICE

多角的な視点が可能性を広げる

ヨーロッパコース４年次生(学年は取材時)　**加藤結子さん**

高校生の頃、世界と中東地域の関係、国民国家のあり方や多文化主義に漠然とした問題意識を持っていたため、本学部の掲げる「グローバル」と「地域」という一見相反するコンセプトと、先生方の多種多様な研究分野に惹かれて入学を志しました。所属はヨーロッパコースですが、卒業論文では "Transimperial Perception of the Middle East in Japan" というように、「非ヨーロッパ地域」に焦点を当てています。この学部では、「複数の視点を持つ」ことが、学問としても人々との関わりの中でも尊重されているように思います。そしてこれらの学びを通して、「見方は一つでなくていい」という当たり前のようにも思える前提が、様々な「当たり前」を越えて、考え方や自分自身の可能性を広げていると考えました。コロナ禍でキャンパスに通えない日々が続き、留学が叶わなかった未練もありましたが、次のステップとしてここで培った多角的な視点を活かし、海外大学院留学を目指しています。

ヨーロッパコース
見原 礼子 准教授

グローバルと地域の視点をつなぎあわせることによって、ヨーロッパの過去と現在の姿はより立体的に浮かび上がってきます。

STUDENT'S VOICE

「他者」を理解するための学び

アジア・太平洋コース３年次生(学年は取材時)　**宮島理彩子さん**

幼少期をタイで過ごし、日本に帰国後も幼い頃に見た東南アジア独特の混沌と大らかさに憧れを抱きつつ、現地の人々が直面する境遇について深く理解したいと思い、本学部のアジア・太平洋コースに進学しました。1年次には多くの学問分野から世界の様々な国や地域について学び、異文化理解において「他者」の生のあり方に目を向け思考を深めることの重要性を学びました。2年次にはタイへの派遣留学を経験し、タイの多元的な信仰・文化やジェンダー観、王国と地域の関係性などについて学びました。現地で生活しながら学ぶなかで、国家として表象されるものと地域社会に見られる現実とのギャップを肌で感じ、複数の問題が交差する社会で人々がどのようにつながりを保とうとしているのか、という問いを持つようになりました。3年次からは文化人類学ゼミに所属し、今後は卒業論文執筆に向けてフィールドワークに挑み、地域社会が生み出すコミュニティの形成について学びを深めていきたいです。卒業後は本学部で培った多角的な思考法を活かし、グローバル社会のなかで変化する人々の暮らしに関わる仕事に就きたいと考えています。

アジア・太平洋コース
渡辺 文 助教

いま躍動するアジア・オセアニアを知るには、地域の固有性とグローバルな動態の両方を見据えた思考が不可欠です。

STUDENT'S VOICE

アメリカでの「感覚」を「理論」で捉えなおす

アメリカコース３年次生(学年は取材時)　**臼井陸翔さん**

私は小学校時代をアメリカ中西部で過ごしました。その数年の間、極端な経済格差や人種間の摩擦といった日本ではあまり見られないような社会問題を意識することが度々ありました。そのため、アメリカの諸問題について学び、またグローバル社会に必要な教養を身につけるために本学部に進学しました。本学部は海外留学あるいは国内でグローバルな体験をする授業の履修が卒業必須条件であり、多様な文化や歴史に触れる機会を提供するカリキュラムが整っている点が魅力的でした。入学後は英語に加え、スペイン語学習にも力を入れ、2年次生でウェスタンミシガン大学に留学した際には自分の語学力が高まっていることを実感しました。卒論のテーマはアメリカの医療保険制度で、本土のいくつかの州とハワイの保険制度の対比を通して、アメリカ合衆国の歴史や文化、政治、経済、社会や人々のライフコースなどについて考察しています。将来は学部で得た知識や能力を活かして希望ある共生社会を実現できるような人材として国際社会に貢献していきたいです。

アメリカコース
二村 太郎 准教授

南北アメリカ地域特有の諸問題と、それがグローバルに展開する影響について、様々な視点から考えていきましょう。

学びの成果

卒業論文テーマ例

グローバル地域文化学部では卒業論文が必修です。ここでは一部を紹介しますが、さらに詳しくは、**学部HP>コース紹介**をご覧ください。

＜ヨーロッパコース＞

- 「ベジタリアン」というアイデンティティ ――社会的行為としての菜食の検討――
- ブレグジットのメディア表象における白人労働者階級のステレオタイプ化 ――現代イギリスにおけるマジョリティの再考――
- スコットランド在住日本人のナショナル・アイデンティティについて ――アンケート調査を通じて――
- フィンランド独立前における国民意識の形成 ――叙事詩『カレワラ』と2つの女性像――

＜アジア・太平洋コース＞

- ニュージーランドにおけるマオリ文化の意義 ――更なる包括的社会実現に向けて先住民族差別と芸術表現受容の観点から考える――
- 経済発展のための最も効果的なインフラストラクチャーのセクター ――東南アジアのGDP上位6か国について――
- 災害対応のあり方から考えるインドネシア社会 ――人類学的視点から――
- ウイグル問題から考える日本の消費者市民社会と人権問題

＜アメリカコース＞

- See the Continuous Anti-Colonialist Movement in Native American Food Businesses
- カナダにおける先住民政策と和解プロセス ――真実和解委員会の活動からの考察――
- アメリカ社会が記憶するローザ・パークス ――児童書に刻まれた国民的英雄――
- コスタリカにおけるエコツーリズムは持続可能か ――シレンシオ村とオスティオナル村の観光形態をもとに――

進路

グローバル地域文化学部の卒業生は、様々な業種、海外展開している企業、公務員など、多くの分野で活躍しています。
また、グローバル地域文化学部の学びを土台にして、さらに専門知識を深めるために、大学院に進学する学生もいます。

主な就職先・進学先

- 住友化学
- パナソニック
- ローム
- 村田製作所
- ダイキン工業
- 京セラ
- 日本ハム
- バンダイ
- 伊藤忠商事
- 住友商事
- 三井物産
- ニトリ
- 京都銀行
- 滋賀銀行
- 三井住友銀行
- 三菱UFJ銀行
- 三井住友海上火災保険
- 東京海上日動火災保険
- NTTドコモ
- ソフトバンク
- ヤフー
- 共同通信社
- 毎日新聞社
- 読売新聞社
- 日本経済新聞社
- 京都新聞社
- NHK
- 博報堂
- 楽天
- アマゾン・ジャパン
- 星野リゾート
- アクセンチュア
- デロイトトーマツコンサルティング
- 日本航空
- ANA
- 阪急電鉄
- 外務省専門職員
- 航空管制官
- 農林水産省
- 京都市
- 京都府
- 大阪市
- 同志社大学大学院
- 京都大学大学院
- 大阪大学大学院
- 神戸大学大学院
- 名古屋大学大学院
- 一橋大学大学院
- 早稲田大学大学院
- 延世大学大学院
- 国立台湾大学
- London School of Economics

卒業後の活躍

きっかけ、刺激、夢のある学部

堀川萌さん
（ヨーロッパコース2021年卒業）

卒業後イギリスの大学院に進学、現在はウェールズに住み、文化遺産や自然遺産のプロジェクトに宝くじの収益金を提供する非政府公共機関で働いています。本学部で得た物事を様々な視点から見る力、他者を理解し、多様な文化や社会を尊重し、共生を試みる力、自分の興味を突き詰める力は、現在の生活において強みになっていると感じます。

本学部はグローバルな問題に関心を持つ仲間と切磋琢磨し、様々な考えを持つ人々に勇気づけられ、自分の可能性を探るきっかけになる場所です。

グローバル社会を生きるヒントがここに

井上乃晏さん
（アジア・太平洋コース2023年卒業）

現在、テレビ局でニュース番組の制作に携わっています。「哀しみに感応する」という学部理念を卒業後も大切にしたく、この道を選びました。本学部の授業は他者理解に重点を置いたものが多く、その学びが仕事にも活きていると日々感じます。例えば、ドキュメンタリーを制作する授業にて「単に取材する／されるという関係ではなく、何気ない時を一緒に過ごし日常を共有することが相手を知る第一歩」という気づきがあったのですが、これを取材業務の際にも意識しています。グローバル社会を生きるヒントが散りばめられた4年間の学びは、私の一生の財産です。

多様な物事の本質を理解するための学び

佐藤紀幸さん
（アメリカコース2019年卒業）

卒業後、大手メーカーに勤務し化学品の購買・営業等とサプライチェーンをひとえに担う業務に従事しています。大学時代、世界における日本という意識を強く持ち、世界を舞台に活動できる日系メーカーを希望し、現在の企業に勤めています。

業務を遂行するにあたり、在学中に学んだ大きな課題を認識し、背景を多面的かつ細かく理解・考察するという思考が現在の世界中の多様な会社との各種交渉業務等に役に立っています。大学時代の友人も様々な領域で活躍しています。現在でも集まり、話をして良い刺激を受けています。

FAQ よくある質問

受験生の方からよくある質問をまとめました。グローバル地域文化学部のイメージを膨らませてください。

Q1 入試の種類について教えてください。

各コースとも、一般選抜入学試験、大学入学共通テストを利用する入学試験、推薦選抜入学試験などを実施します。各入試ともコース毎に募集を行います。入学後のコース変更はできません。

Q2 本学部の特徴を教えてください。

グローバル地域文化学部は、外国語学部のようにコミュニケーションのツールとして言語を中心に学ぶだけではなく、国際系学部のように国際関係論や国際問題を中心に学ぶだけでもありません。本学部は、各地域にある諸問題や、グローバリゼーションの時代に登場してきた新たな課題を、その地域に特有の歴史的文脈や文化的背景をふまえながら考えていく学部です。同時に、他の地域・文化圏とのグローバルな結びつきや摩擦についても理解を深めていきます。英語を含め複数の外国語を学ぶことで、日本および世界諸地域の歴史・文化・課題を複眼的かつ多層的に理解する視座を得ることができます。

Q3 学べる外国語について教えてください。

どのコースでも、12の言語から最低二つの言語を学びます。重点的に学ぶ言語を第一外国語、もう一つの言語を第二外国語と呼びます。言語の選択には次のような条件があります。

- 第一、第二外国語のどちらかに英語を選択します。
- 各コースで英語以外に選択できる第一外国語は次の通りです。
  ヨーロッパコース：ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語
  アジア・太平洋コース：中国語、コリア語
  アメリカコース：スペイン語
- 英語を第一外国語とする場合、各コースで選択を推奨する第二外国語も上記と同じです。
- イタリア語、ポルトガル語、トルコ語、インドネシア語、アラビア語は、第二外国語としてのみ履修可能です。

Q4 留学する場合、4年間で卒業できますか。

可能です。本学部では短期の語学留学から、海外協定大学への長期派遣留学まで、様々なプログラムが用意されていますが、いずれの留学を選ぶにせよ、4年間で卒業するためには計画的な単位取得を心がける必要があります。就職活動や卒業論文執筆に十分な時間をかけるため、あえて卒業を遅らせる学生もいますが、それはあくまでも各人の判断にゆだねられています。

Q5 教員免許は取れますか。

中学校教諭（社会）および高等学校教諭（地理歴史）の免許取得が可能です。

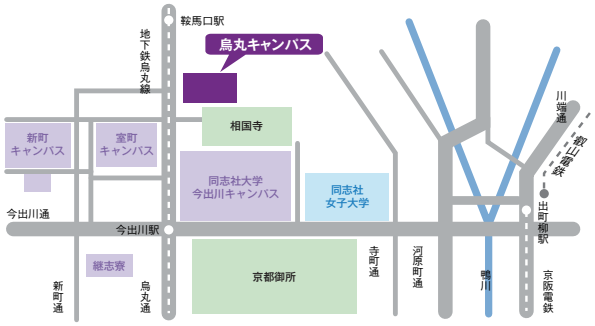
グローバル地域文化学部ホームページでは
- 提供カリキュラム
- 教員紹介
- 受験生向けFAQ

などの情報を提供しています。
ぜひご覧ください。
https://gr.doshisha.ac.jp/gr/

学部ホームページ

グローバル地域文化学部公式Instagramでは授業の様子や学部生の生の声を紹介しています。

GR_DOSHISHA_KYOTO



グローバル地域文化学部の学びの中心となる烏丸キャンパスは、グローバル地域文化学部のほか、大学院グローバル・スタディーズ研究科、国際教育インスティテュートの拠点として、同志社大学の「国際主義」を象徴するキャンパスです。

本学部のロゴは、学部開設10周年を機に、京都の老舗「唐長」とのコラボレーションにおいて、唐長「平成令和の百文様」から生まれました。学部名の略称である「G」と「R」を配した、陸、海、空をも想起させるスケールの大きなデザインは、暗闇の中から生まれ出る希望の光と、様々な「志」が交わる場を象徴しています。

DOSHISHA GLOBAL AND REGIONAL

同志社大学 Doshisha University

同志社大学グローバル地域文化学部
〒602-0898 京都市上京区烏丸通上立売上ル
TEL：075-251-2610／FAX：075-251-2781
メールアドレス：ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp

発行日：2024年4月1日